

## 【論文賞】 濱崎英作 氏

- 受賞対象論文：「先進的な数値計算手法に基づく地すべりの運動過程の再現および発生危険個所評価」に関する一連の論文
- 著者（筆頭著者）：濱崎英作

### ●受賞理由：

近年、地すべり防災のソフト対策として、警戒避難体制の整備と、災害発生危険個所の把握・評価が重要度を増しています。技術的な面で、地すべり運動の物理モデル化は滑落時刻など地すべりの予測精度を高め、また、斜面の地形・地質構造評価の定量化は地すべり危険斜面の客観的評価に重要となります。濱崎英作氏は、せん断抵抗力と滑動力のつり合いに、すべり面での粘性抵抗としてダッシュポット型の制御ダンパーを加えた質点系ダンパーモデル（LDLM）によって、変位速度を予測する地すべり運動モデルを提案しました。このモデルでは、粘性抵抗の低減・回復を考慮し、伸縮計での断続的変位データがある程度時間を遡った平均移動速度で表すことで、予測の精度を高めました。

一方、濱崎氏は、地すべり微地形の発達段階や斜面の置かれた地形場など、主に空中写真判読で地すべり地形の再活動危険度を評価する時の視点や要因をAHP法で定量化するプログラムを開発しました。そして、2011-13年度国交省河川砂防技術研究開発課題「地震時の地すべり発生危険斜面評価手法の開発」では、それにバッファ移動分析を導入して斜面の大きさなどを考慮して解析スケールを変えられるよう発展させ、日本地すべり学会として提案しました。さらに、濱崎氏は、地震時の造成地盛土斜面の危険斜面を評価する

ために、簡易な剛体ばねモデルによる球面すべりを仮定した3次元安定解析手法も提案しています。

以上のように、豊富な現場経験から技術的ニーズを捉え、先進的な数値計算による解析的な手法で国内外の地すべりの研究と対策技術向上に貢献してきた一連の研究論文は、論文賞に相応しいと評価いたしました。

推薦者：日本工営株式会社 檜垣大助

### ● 略 歴 ●

- 1979年3月 熊本大学理学部卒
- 1981年3月 同大学院理学研究科修了
- 1981年4月 日本工営株式会社入社
- 1997年7月 有限会社アドバンテクノロジー設立  
(現在株式会社)
- 2007年3月 京都大学大学院工学研究科 博士  
後期課程修了
- 2011年3月 株式会社三協技術 専門役 兼務  
技術士  
(応用理学部門、総合技術監理部門)  
博士 (工学：京都大学)

